

人間の生と死

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：非常勤講師・宇佐美公生

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：17

■ 授業概要

「人は皆いつか死ぬ」ということは古来人々の重大な関心事であった。生と死をどう考えたら、限りのある人生を前向きに生きることができるだろうか。このような関心を背景にした「死生学」の基礎を提示する。すなわち、死生について現在の私たちの理解と思考、日本文化等における死生観についての理解を深めた上で、看護職者として死生の理解をどのように活かすか、また死に直面している人々にどのように接するかを考えるよう授業展開する。

■ 到達目標

1. 死生学という学問分野について基本的なことを理解し、説明できる。
2. 日本語「生きる」「死ぬ」等の意味を分析することができ、説明できる。
3. 死生をめぐる代表的な考え方や文化を理解し、基本的なことを説明でき、また自分の考えを提示できる。
4. 死に直面して生きる人々への医療・ケアにおける死生の問題について、基本的なことを理解した上で、具体的な問題を考えることができる。

■ 教育内容

科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解

■ キーワード

死生学、身体の死、人の死、他界、復活、日本人の死生観、エンドオブライフ・ケア、生命維持の差し控えと終了、安楽死、緩和ケア、スピリチュアル・ケア、快適(comfort)、尊厳(dignity)

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	死生学序論 生と死の文法と理解	・死生学（Thanatology）の成立と展開 ・「身体の死」と「人の死」（講義とワーク）	宇佐美
2	死をめぐる思想・文化①	・「人は死んだらどうなるの」－私たちの文化の場合 （講義とワーク）	宇佐美
3	死をめぐる思想・文化②	・死をめぐる様々な考え方①：死と復活／存在の変容、 （講義とワーク）	宇佐美
4	死をめぐる思想・文化③	・死をめぐる様々な考え方②：死と葬送 ・自分の死と他人の死（講義とワーク）	宇佐美
5	死に直面することに備える	・死に臨んで希望を持つことができるか ・死を受け入れることと希死念慮 （講義とワーク）	宇佐美
6	人生の最終段階における医療・ケア（1）	・人生の最終段階に向けた意思決定支援：ACP ・老いによる人生の最終段階：老活 ・終末期医療、ターミナル・ケア、エンドオブライフ・ケア：用語と考え方 （講義とワーク）	宇佐美
7	人生の最終段階における医療・ケア（2）	・人生の最善を目指す選択が縮命を伴う場合の考え方 ・関連する用語：「安楽死」「生命維持の差し控え・終了」 （講義とワーク）	宇佐美
8	人生の最終段階における医療・ケア（3）	・尊厳をもって最期まで生きる ・自分の人生をどう評価するか ・「スピリチュアル」とは（講義とワーク）	宇佐美

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

授業への積極的参加・質問への回答 30%、期末小試験 30%とレポート 40%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・授業中に提示する質問への答え（Classroom 使用）については、次の授業時に解説を行う。
- ・期末小試験については、試験後に採点基準と解説を Google Classroom に掲示する。レポートについては、提出前に採点基準を提示する。希望者にはレポートのフィードバックを行うので、希望者は学務課を通して申し出てください。

■ 教科書

- ・清水哲郎著（2022）『医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学』医学書院
- また、デジタル版『ナースング・グラフィカ』の関係箇所を適宜参照する。

■ 参考書・参考資料等

- ・清水哲郎、会田薫子編著（2017）『医療・介護のための死生学入門』東京大学出版会
- その他、授業中に紹介する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ 90 分程度必要とする。
- ・授業前は、シラバスに沿って教科書の関連箇所を提示するので、そこを予習する。授業後は、教科書及び授業の内容を振り返り復習する。

■ 担当教員からのメッセージ

「人間の生と死」についての様々な考え方や文化を理解することは、死に直面して生きる人々への医療・ケアにまつわる問題に対応しなくてはならない看護職にとって重要な基礎になります。正解があるわけではないので、自分なりに考え、周囲の人たちと話し合うことで、視野を広め、思考を豊かにするようにしてください。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

学務課にお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

無

■ 担当教員の実務経験

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容